

3段階評価 A:達成 B:一定の成果あり C:不十分	自己評価(総合)	B	学校関係者評価	B
----------------------------	----------	---	---------	---

教育の方針	3段階自己評価	自己評価	3段階外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
努力目標				
1 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力問題解決力が行使できる人材を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の唱和をすることにより、建学の精神を軸とした教育を実施することができた。・確かな知識・技術の習得と責任ある行動を学生自ら考え行動することができた。 朝のHRや学校行事、学内演習、臨地実習、授業等あらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。学生一人ひとりの状況や到達度に応じた指導を行い、学科会等において情報共有を行い、細やかな指導ができた。 ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。勤労を愛するについては多くのボランティア活動を実施し、実践できた。 校外実習や各種行事、ボランティア活動を通して建学の精神の具現化に取り組み、主体的に行動できる人材育成に努めた。 ・多くのボランティア活動や実習を通し判断力や応用力を身につけられるような学びができるよう努めた。 日々の授業や演習・臨地実習でも看護者としての知識・技術・態度を各学年の到達度を踏まえて計画的に指導が行えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来自分の生業として生活していけるように」というのが私たちの時代の考え方だったが、手に職をつける重要性を今の子どもたちは知らないのかもしれない。今の時代は、自分の強みとして国家資格でも県の資格でも何か資格を持っていたら100%ではなくても生活の心配をすることなく食べてはいける、というようなハングリーさは無い。 ・「建学の精神」について、「道義」を一人一人どのように感じているか、「実利」はどう感じているかを、例えば1年生の新鮮な時と3年生の時に考えてもらってはどうか。仕事をするにあたってとても精神で、奄専を出たら根本的なものが培われているというのはとてもいいと思う。学生本人たちも自分に消化できるようにしていけたらと感じた。 ・一つ一つの意味をかみ砕いて、学生自身の建学の精神を1年次と3年次で再確認する時間を設けてはどうか？
2 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当分野の専門性を探求するために各種研修会や看護教育学会などに参加し自己研鑽に努めた。また、担当分野の授業、実習での指導の充実を図ることができた。 ・授業評価を行うことで授業の改善、教員の質の 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では国家試験対策をしないところの方が多い。本校の先生たちのように面倒は見ないし、個々に合わせて丁寧に行くことはしない。自分でしなければいけない。 ・大学と専門学校、違いが分からない。実践力を養うという点で、実際にすぐに働けるのは専門学校の強み。

		<p>向上をを図ることができた。しかし、自己研究などの時間確保ができず、教員自身の自己研究遂行意識を高めることと、時間の確保が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への授業評価を実施各々の授業について客観的立場からの振り返りを充実させた。90分授業が講義のみにならないようにグループワークや実践活動などを多く取り入れるよう努めることができた。また、学生に内容が伝わりやすいよう、教材研究にも努めた。 ・資格取得達成のため資格を持つ意義等も積極的に伝えることに努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生からは、実際に働いてから周りに「他のところとは違って技術を習得してきたんだね、実践力があるね」と言われたと聞く。ここを卒業してよかったと言ってくれる方も多い。それが広がっていけば。 ・教員の方々はコロナ禍の中、実習の打ち合わせ等、大変だと思います。また、準備等についても自己評価されていますが、準備等の時間の確保は本当に継続しての課題だと思いますが、目玉を一つでも確保できたらいいと思います。
<p>3 全教職員が一丸となって教育相談を積極的にを行い、学生一人ひとりの理解に努める。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が全ての学生に声かけを心がけた ・クラス担任を中心に個人面談を実施し、学生の抱えている問題について真摯に向きあうことに努めた。場合によっては、病院受診を促し、通院に連れ出したり、主治医との面談を重ね、生活面からの相談、見守りを実施した。保護者との連携には特に注意し、積極的に努めた。 ・定期的に学科の会議を実施し、各クラス、実習のなかで生じた問題を共通認識し、問題解決に向けて取り組むことができた。 ・学生個別対策ゼミを実施し、個別指導を行い苦手科目の克服に努め、学生生活のすべてを指導の場と捉え学生理解に努めました。 <p>様々な場面で学生とのコミュニケーションを図り、指導に生かせるよう取り組んだ。また、スクールカウンセラーの先生と連携し学生への理解を深めるよう努めた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価にあるように、職業として、心の在り方など課題になると思います。 ・自己評価の機会やメンタルヘルス、気分転換の仕方など情報過多の中、講義上ではなく、親身になり時間を割いて割いて下さりありがとうございます。 ・今後は自己覚知など、“自分”の傾向を知り、ストーリーミングやストレングス、アンガマネジメントなどの技法を使っていかれては。 ・病院でも働き方改革で何年か前から安全性委員会というのを立ち上げてストレスチェックというのをしている。その後に希望があったり本人にストレスとかがあったりした場合に産業医のカウンセリングを進めている。学校ではそのカウンセリングだけで済んでいるか。 ・コロナ禍で先生方も実習の打ち合わせが大変。本当に学内での実習でいいのかという思いがある中、先生方は本当にご苦労されているのではないかと。教員としての業務や学生募集をする中、現役の学生の対応もあり、メンタルヘルスはどうか。福祉・看護は感情労働なので、自分たちの職場でも人間関係で自分の中に鬱積したりしている。学生の中でも、島外からの学生はホームシック等も含めて鬱積するものもあると思うので、メンタルヘルスカが重要。
<p>4 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間に多くの地域活動やボランティア活動に教職員を含めて参加をした。 ・奄美まつりパレード、エイサー部が各種の催し物に参加をした。(2019年度) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様ボランティアに関しても、先生方も一緒にとなので本当に大変だと思うが、アピールの場でもある。今年はボランティアを行う機会が少なくなった分、色々アピールする機会も減ったので、それはそれで大変と感じた。

<p>される学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主ボランティア活動に取り組み、時には学生と一緒に活動を実施した。また、地域でのフォーラム等にも学生と一緒に参加し、意見交換を行った。 ・島内全域の施設や保育園、各種団体など幅広い分野からボランティアの依頼があり、地域に貢献した。地域の運動会や行事にも参加、また学校行事として敬老感謝のつどいに地域の高齢者を招待しレクリエーションを実施するなど、地域の方との交流も盛んに行うことが出来た。 ・小湊敬老感謝の集いやクリスマス交流会などの地域活動やボランティア活動に学生と共に参加し地域貢献に努めた。 ・ボランティア活動や、施設慰問（エイサー部）等、学生が地域活動に積極的に参加する様子がうかがえた。 ・2019年度のボランティアは72件、参加述べ数697名であった。学生数が減少している中、クラスのボランティア委員を中心にボランティア活動への参加を呼び掛けた。地域活動へ積極的に参加し地域からも喜ばれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを行う際には、必ず職員が引率されている。 ・年間のボランティアを見てもすごい時間を参加しているのがわかる。 ・福祉施設としても大きな行事等は、学生がいないと困る。 ・今年度は、コロナ禍の中、活動は厳しいが、今後も活動を精査し、無理のない範囲で積極的に行ってほしい。
<p>5 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。 ・国家試験対策については1年次から少人数制の学習サポートを行っており、成績下位の学生の指導強化を図り、国家試験合格率97.2%、全国合格率94.7%を上回った。 ・ハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。 ・進路ガイダンス等の情報提供を行い、学生本人やご家庭の希望に添えるようサポートを行った。卒業生の勤める各事業所訪問も継続して行い、定着指導にも努めた。 ・進路面談を通して専門職に対する意識を高め、就職率100%に努めた。 ・授業や実習を通して看護の魅力を学生に伝え、 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けた広報活動として、小学校・中学校の時からまず学校に来てもらうように、空き教室の活用をしてはどうか。 ・中学2年に絞って福祉・看護の体験をしてもらう。学校の先生にお願いして授業の一環で来てもらうと入りやすくなるのではないかと。中学生はなかなか自分で来ることは難しいので、学校見学や空き教室を利用した授業等を実施した方がいいと思う。 ・病院でも見学受け入れや学校訪問をしているので、今後実施を検討してみてもどうか。

		資格取得のモチベーションを高めた。進路ガイダンスを行い実際の病院関係者の声を学生に伝え、進路決定を促した。	
6 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定住を促す集い、教育振興協議会を開催し地域を含め高校の先生方とも交流を深めた。 ・ 奄美市との連携を深め、奄美市からの補助金も継続となった。 ・ 地元高校からの出前講座や施設物品の貸し出しや図書室利用など積極的に受け入れ地元関係機関との連携に努めた。 ・ 学校開放における講座（医療的ケア研修）などを実施した。 ・ 子育て応援団の実施により、地域社会との連携に努めた。 ・ 各実習先との情報交換や連絡を密に行い、連携を図り実習環境の改善に努めた。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生数が少なくなっている中で、学生の確保が非常に困難。今後も、小中学生程度から関わりを持つ機会を設けていけたら。 ・ 空き教室の活用について。例えば事業所や福祉施設等に、空いている場所を学生と関わる際に有償で貸し出すといったことや、看護の場合は医師がいけないが、検診会場として実習できない期間に高齢者に来ていただいて医師のいる中で検診の受診をしてもらう、といったような新しいことが出来たら実習の経験に繋がるのではないかと。 ・ 今後も看護・福祉は重要な勉強なので、施設内を有償貸出するのであれば、奄美市や他の市町村からも連携を取ってもらって何かしら学校をバックアップしてもらえようになったらと思います。
7 全職員の協力による学生募集の推進	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集分担表を作成し全教職員で募集にあたった。 ・ 少子化の影響や都会志向の若者の島外への流出を少しでも減らし本校の入学につなげるための取り組みを再度見直す必要がある。 ・ 定員確保に向け努力したが、目標値を達成できなかった。次年度はさらなる努力を重ね、多角的な視点でアプローチできるようよう情報収集に努めたい。全教職員はもちろんのこと、卒業生など他者からの視点も取り入れ学校の魅力が伝わる募集活動にしたい。 ・ 体験入学を8回行い学生募集に努め、ガイダンスや出前講座にも参加し学生募集に全職員で努めた。 ・ 職員会議や学生募集強化委員会、職員研修などで募集についてのアイデアを出し合った。高校訪問の実施や進路ガイダンスの参加を行った。 	C <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問等を病院と学校側と一緒にやるのはどうか。学校ではこういう風に学んで、そのあと卒業したらこういう仕事をしますといったように伝えられたら。 ・ 親の立場で考えると、子どもが学校に行っていた時に欲しかった補助があり、とても羨ましかった。子ども達も国から借りた学生ローンは返さないといけないが、今の制度を利用したら、長くても5年で無くなる。この点をもっとアピールしたらどうか。ローンを長い間払うというのは大変な事なんですよということを含めて伝える。 ・ 支援が充実しているところをアピール。 ・ 人材確保の入り口は学校。そこが充足しないと本当に現場が困るので、何とかしなければいけない。 ・ 空き教室を利用して中学生に向けた取り組みを行うというのも本当に一つの案。 ・ 自分たちの年代の子どもたちが大学生・専門学校生という年。子どもにかかっているお金の話になるが、内地行くと学費だけでなく、遊びや生活費に結構お金を送らないといけないと言っており、ここでの進学でよかったねと言われる。 ・ 全世界で自粛となり、失業者が出て、食べられない、生

			<p>活が出来ない、となった時に医療従事者と介護者は強い。仕事上、リスクは高いけれども仕事を失うことはない。仕事があるというのはメリットだと捉え、医療・介護はいつも必要とされる、私たちには仕事があるんだよということをみんなに理解してもらえればと思う。みんなが医療従事者になろう、と希望を持てるようになってほしい。</p>
--	--	--	--